

2016年10月度（第345回）ライフサイエンス分科会

開催日時：2016年10月20日（木） 14：00～17：00

開催場所：文京シビックセンター5階 会議室A

参加人数：12名

記入者：株式会社サンメディア 前田亜寿香

内容：システムティックレビューサーチに関する文献調査(索引を中心に)

1, 昨年の振り返り(エルゼビア・ジャパン株式会社 田中早苗氏)

2015年10月のライフサイエンス分科会において、「EMBASE、PubMed(MEDLINE)、医中誌 Web等を用いたシステムティックレビューの検索方法についての検討とその報告」を行った。

今回は続編として、昨年取り上げた検索テーマ Batter Syndrome と Gitelman Syndrome のディスクリプタについての調査結果を、国立成育医療研究センター 鈴木氏より報告いただいた。

また、エルゼビア・ジャパン 田中氏より、今年公開された Embase の PICO サーチフォームが、デモを含めて紹介された。

2, 索引についての調査と考察(Barter 症候群と Gitelman 症候群)

(国立成育医療研究センター 鈴木博道氏)

Batter Syndrome と Gitelman Syndrome について、どのようなディスクリプタで索引されているかを探るため、EMBASE、MEDLINE(PubMed)、医中誌 Web のディスクリプタの、時期別付与ディスクリプタの調査結果を報告いただいた。

Batter Syndrome がディスクリプタとして登録されたのは、EMBASE は 1974 年、MEDLINE は 2005 年、医中誌 Web は 1983 年と、開きがあることが分かった。なお MEDLINE は 1975 年以降は provisional heading として使われていた。

また、3つのデータベースにてディスクリプタ検索を行い、年代別のヒット件数が報告された。MEDLINE(PubMed)では、刊行年別件数の合計と、刊行年で限定しない場合の合計件数が一致しなかった。理由として、同一文献でも、冊子の刊行年と Epub の刊行年が異なる場合があり、これにより合計数が一致しなかった。

PubMed と MEDLINE(OVIDsp)で、年代別のヒット件数に差がある年があった。理由として、Epub による差であること以外にも、Ovidsp には重複レコードがあったことが報告された。

データベースごとの、ディスクリプタの年代別変遷や、ヒット件数についてじっくりと確認する機会はなかなかないため、非常に興味深い報告であった。

3, 話題提供: Embase の PICO サーチフォームについて

(エルゼビア・ジャパン株式会社 田中早苗氏)

2016年2月に公開された Embase の PICO サーチモジュールのデモを行っていただいた。システムティックレビューにおける PICO 検索をサポートするための専用検索フォームで、あらかじめ用意された Population(患者)、Intervention(介入)、Comparison/Control(比較)、Outcome(結果)の4つのボックスを使って、簡単に検索式を組み立てることができる。それぞれのボックスでは、Emtree を参照しながら検索用語を設定することができ、メジャー統制語や、下位語を含む等の設定も可能。システムティックレビューサーチでは、フリーキーワードも重要になってくるが、PICO サーチフォームでは簡単に同義語も追加できる。その他、研究デザインでも限定が可能。

EBM で用いるために、システムティックレビューサーチの需要は今後さらに高まると思われるが、誰でも簡単に PICO 検索ができるフォームは、ぜひ活用いただきたいと感じた。

4.話題提供: JDreamIII 新機能(引用情報の追加)紹介(株式会社サンメディア 前田亜寿香)

1995年以降の国内原著論文(JSTPlus、JMEDPlus)に引用情報が追加された。数としては、1995年以降に発行された約255万論文に、約3,600万件の引用情報が追加された。

これに伴い、引用・被引用を表示する形式として新たに全項目(ALLC)が追加された。引用・被引用をダウンロードするには、必ず「タブ区切り形式」でダウンロードする。引用情報の追加は、JDreamIIIへの文献収録後、約1か月後になる。

<活用事例>

- ・L番号に対して、引用・被引用関係にある文献を追加することができる。これまでのキーワード検索ではヒットさせることが難しかった、類似研究の把握が容易になる。
- ・論文ごとに、引用文献と被引用の文献の情報を確認することができるため、先行研究、後続研究の把握が容易にできる。
- ・引用数や被引用数で、分析をかけることができるため、特定の分野で注目を集めている論文や、研究者、研究機関等を簡単に把握することができる。

その他、引用・被引用の出力料金、ダウンロードデータのフォーマット変更、利用約款の変更について紹介した。また、機関IDが新たに追加されたことも紹介した。

国内データベースで、引用・被引用が確認できるデータベースは CiNii Articles、J-STAGE、J-GLOBAL などがあるが、JDreamIIIでも確認できるようになり、より便利になった。ただし、引用情報が追加された文献は、全体としてはまだ一部の文献になるため、分析に利用するには、今後の件数の追加に期待したいという声があがった。

以上